



ESC情報

秋季号

シンプルに話す

暑かった夏も過ぎ、北海道は初秋の頃を迎えております。この号が出るころには中秋になっていると思われまので、暖房の準備を始めている方も多いのではないのでしょうか。少し前まで「暑い、暑い」と言っていたのが「寒い、夏の暑さが懐かしい」という人がでてくるでしょう。人とは誠に勝手なイキモノでございます。

さて、今回は話の仕方について考えてみます。私も話をするのが得意ではなく、話の仕方が上手な人を見ると、感心し、どのようにすれば受け手が聞きやすくてできるのか考える日々を過ごしております。

必ずしもアナウンサーのように滑舌よく話ができる必要はないようです。まずは落ち着いてゆっくり話す。これが重要なようです。また、相手の反応を見ながら、適切な間を置き話すことも必要です。早口で相手が理解できないほどにまくし立ててしまうと、たとえ良い話をしていても話を理解してもらえないばかりか「何を言っているか分からない、話が下手な人だ」と判断されてしまうかもしれません。特に人は自信が無い時に通常よりも早口になる傾向があるようです。逆に考えると、自信が無くても落ち着いてゆっくり話す相手と納得させることができるかもしれません。また、文章もそうですが、一文があまり長くなりすぎないようにすることも必要です。一文が長すぎてしまうと、先に話をしていたことと今話をしていることにつながりが難しくなります。また、結論は何だろうか疑問を抱くこともあります。話をしている人も混乱し、自己矛盾が出ることもあります。一言で話す文は、できるだけ100字以内にするのが良いようです。意味もなく難しい言葉をちりばめてインテリぶるのもよくありません。平易な表現を心掛けましょう。

ただし、技術的な話をする時には専門用語が出てくるのは致し方ありません。しかし、相手がどの程度理解しているかを確認しながら話す必要があるでしょう。これは若手への教育をする際にも同様のことが言えると思います。相手が「はい」と言ったとしても、理解してなさそうであれば言い方を変えて今一度説明するなど、相手の状況を見てどのような表現や言い回しが分かりやすいかを考えることが必要だと思えます。

いろいろな場面で話す機会を増やし、これらの事に気を付けながら話をする事で、より聞きやすい話し方を身につけていくことができると思います。私自身も日々これらの点に気を付けつつ話をするよう心掛けています。(まだまだですが・・・)

相手に理解をしてもらう上で話し言葉や文章はとても大切なことです。一人一人が言葉の使い方に気を付け、お互いの理解を深めていくよう努力していきましょう。



代表取締役 向井 潔

ESC 情報 2020年秋季号によせて

今年も10月になり、後3か月で今年も終わります。
今年の初めから新型コロナウイルスが流行し、最後までこの伝染病のことで持ちきりになり、日本は元より世界全体で死者100万人に達する大事件になりました。
今年予定していた東京オリンピックの開催も一年延期になりました。

弊社も従業員の皆様の努力により大変な危機を乗り越え売上も昨年度並みとなりそうです。

そのような中で皆様が健康で日々を過ごすことが出来ることはとても幸せな事です。

一年を顧みて会社の成績は厳しくても、それ以外の要素も大切と思っています。

会社周辺の整備、花壇や緑地の手入れも良くしており常に美しく快適な一年でした。
工場、事務所の中も常に整理整頓され、とても気持ちよく快適に過ごすことが出来ました。
これも皆様の努力と協力によるものと感謝しております。

今年も残り3か月、健康で無事故で過ごせますよう祈念しております。



取締役相談役 向井 隆



操作訓練、昇柱訓練を実施しました

7月28日、社員向けに配電向け地中多回路開閉器の操作訓練を実施しました。

本訓練は、北海道電力ネットワーク株式会社殿から委託していただいております、開閉器操作の適正維持を主な目的とし、今後業務に携わるメンバーの教育のために年に一度実施しております。訓練は座学と操作訓練で丸1日かかり、開閉器操作の知識と操作方法を覚えてもらうまで、何度も操作をしてもらいました。また実際に業務を担当しているメンバーから、現場作業で経験したヒヤリハットの話をしていただき、今後の作業に活かす情報共有ができました。



座学の様子



開閉器操作訓練の様子

7月30日には毎年恒例となっている昇柱訓練を実施しました。今年は参加者が16名と多く、中にはスリルを求める(?)営業部の志願者も参加しておりました。

当日は見事な晴天で、無墜落昇降柱法のDVD視聴後、注意事項を説明し昇柱スタート。夏の暑さが訓練生たちを襲い、厳しい環境でしたが全員無事に訓練を終えることができました。



2つの訓練の講師を担当させていただきましたが、人に教えることで気づかされることが多く、私自身とても勉強させてもらいました。今後も当社の技術力向上のために、毎年取り組んでいきたいと思います。

第1技術部 制御システム1課 高村 和樹



津別発電所 取水口自動制御盤他装置更新工事

この度、津別発電所取水口自動制御盤の更新工事を担当させていただくこととなりました第2技術部 田村紘輔と申します。

取水口自動制御盤は、取水量の調整を目的とし、設定されたダム水位・水路水位になるよう取水口制水門の自動制御を行うものです。本装置ではタッチパネルを採用しており、各種設定や故障、動作履歴の確認、一定期間内のデータ保管等が行えます。また、ペーパーレスレコーダによって水路、ダム水位や制水門開度の値を記録します。

本件では自動制御盤製作および工場試験を担当し、11月にはベテラン社員と共に現地入りし、現地工事、現地調整試験についても学ぶ予定です。10月13日現在、自動制御盤の製作を終え、工場試験を行っております。ハード・ソフトウェア各分野での制御内容を理解し、自動制御盤のシステムを学びつつ試験を行っております。

自動制御盤の製作・試験を担当することは、私自身初めての経験であり戸惑うこともありますが、本件に携わることができ嬉しく思っております。

まだ、現地での工事を控えてはおりますが、本件を通して得た知識や技術をしっかりと身につけ、今後の業務に活かしていきたいと思っております。



取水口制水門自動制御盤



試験風景

第2技術部 田村 紘輔





潮見変電所 現地安全パトロール



9月1日に当社代表取締役向井潔、電力システム課長 畠山耕一、生産管理課金平考由、品質管理課長久田昭憲の計4名によるメンバーにて【潮見変電所バンク逆潮流対策工事】の現地安全パトロールを実施しました。

当日は、バンク逆潮流保護盤の据付作業を行ってまいりました。

安全パトロールでは、KY活動の実施状況や作業員の健康状態の管理、作業現場の整理整頓状況や作業中の不安全行動の有無などをメンバーにて目視および聞き取りによる確認を行いました。

実施状況としては、盤据付時の作業責任者のしっかりとした指示出しが行われ、また作業員が不安全行動を起こしそうになった時にも責任者が的確に注意を行い、現場作業が安全かつ速やかに行われていることを認識でき、安全に対する高い意識をもって作業が行われていることが確認できました。

今回の安全パトロールに際しご協力をいただきました、北海道電力ネットワーク株式会社北見支店電力部変電グループ様、当社現場作業員の方々には感謝申し上げます、今後とも安全作業でお客様の信頼を得られるよう努力してまいります。



安全衛生委員 久田 昭憲



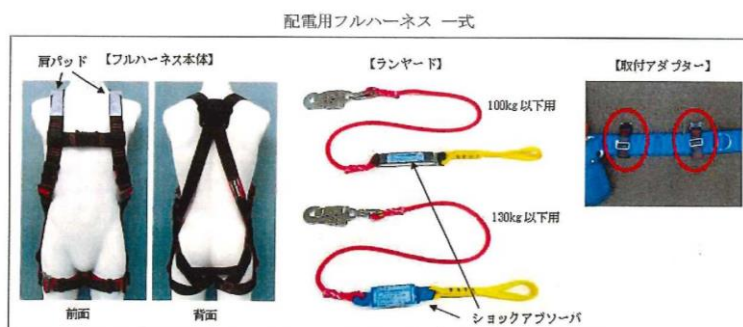
フルハーネス型墜落制止用器具（安全帯）の特別教育の実施

高所作業において墜落時の身体へのダメージを軽減する目的で、労働安全衛生法が改正され、2022年1月2日からは改正構造規格に基づくフルハーネス型安全帯のみが使用可能となります。

法改正に伴いフルハーネス型安全帯を使用する場合には、学科4.5時間、実技1.5時間の特別教育を受けることが義務付けられました。

当社でも技術系全社員を対象とし、2019年2月から順次、教育用テキストおよびDVDを用いた特別教育を実施し、参加した社員は真剣に講師の話聞き安全に対しての意識をより一層高くもって教育訓練に臨んでおりました。

なお、装備品につきましては北海道電力ネットワーク株式会社配電部様ご指定の電力用規格品を手配中です。



品質管理課 細目 浩明

編集後記

だんだんと寒くなり、日が短くなってきました。皆さんはもうストーブを点けましたか？
私は11月に入るまで頑張ろうと思っていましたが、寒さに負けてストーブを点けてしまいました。部屋が暖かくて快適です。

先日家族が遊びに来ました。家族のリクエストで豊平峡ダムに行き、紅葉と放水を見てきました。当日の朝は肌寒かったのですが、天気は良く、お昼には暖かくなってきたのでとても過ごしやすかったです。紅葉の美しいグラデーションが見られました。

今年も残り少しとなりました。健康のまま今年を過ごせるように手洗いうがいを忘れずに行いましょう。2度洗いが効果的とのことですので実践をしてみたいはいかがでしょうか。

総務部 福田 未幸



ESC 情報NO. 155 秋季号



発行所 北海道電気技術サービス株式会社

〒069-0832

北海道江別市西野幌 120-8

TEL(011)384-8888 FAX(011)384-8889

<http://www.hesc.co.jp/>

e-mail:hesc@hesc.co.jp

発行者 向井 隆

編集者 総務部